

2021.11.20 県連組織拡大検討会(第2回) 記録

2021.11.26

日時：2021年11月20日(土) (13時受付) 13時30分開始

場所：宇都宮市サイクリングターミナル 湖森館研修室 宇都宮市福岡町 1074-1

内容：組織拡大に向けた第2回検討会 (6月21日が第一回)

1) 13時30分～14時30分

日本勤労者山岳連盟が6月26日に開催した全国ハイキング活動者会議の報告等

講師：日本勤労者山岳連盟 ハイキング委員会 委員長 田上千俊

2) 14時30分～15時30分 意見交換

参加者：野木山想会5名、アンサンブル1名、宇都宮HC2名 計8名



講師 労山ハイキング委員会委員長 田上千俊



参加者



参加者



参加者

概要：

・労山の規約第2条には、「この連盟は登山・ハイキング・・・を発展させる。」とハイキングを明記しており、単に山頂を目指す登山だけでなく、多様な登山の仕方、例えば、写真を撮るための登山、絵を描くための登山なども目的としている。

・会員を増やすことが組織的に大変になってきて、増やす努力をしなくなった労山の加盟団体は、会員が減ってきている。会員を増やす努力は、毎年続けることが大切である。

- ・ 労山の加盟団体では、新しく会に入った会員の一番多いきっかけは「HPを見て」と答えているので、会に入りたくなるようなHPの充実が大切だ。
 - ・ 2020年のコロナ禍で、バスハイクを中止した会は、多くの退会者を出している。
 - ・ 従来、北海道では3シーズンしか山に行っていなかった。雪山の知識や技術を教えて、4シーズン行けるようにしたら、コロナ禍でも若い会員が増えてきた。研修で出来なかったことが出来るようになり、楽しくなったので若い会員が増えてきた。
- コロナ禍で高齢の登山者が減ってきているが、逆に若い登山者が増えている。しかし、ストックをリックに刺していたり、ストックにキャップを付けないで歩いている若者がいるので、会に入ってもらって教わるようにする必要がある。
- ・ コロナ禍でフットサルやゲートボールの会場が借りられなくなり、会に入って来た人達がいるが、山が好きで入ってきたのではない人達はやめていった。
 - ・ コロナ禍でも昨年300回山行を開催している会があるが、リーダーなる人が2人に1人いる。
 - ・ 年齢にこだわらずに、会員を増やすことが大切である。ただし、高齢者が増えると、高齢化に伴う安全対策の研修も必要になってくる。
 - ・ 十分山に登ったので、「もうこれで満足だ。」と感じた時は、高齢化した証拠だ。
 - ・ 2000mの山へ行っていたが、高齢化したのでレベルを落として1000mの山しか行かないと、つまらなくなり会員は減っていく。高齢化しても登山のレベルを落とさないことが大切だ。2000mの山には日帰りで行けたのに行けなくなったとあきらめるのではなく、1泊2日で行くようにすればよい。日帰りでも、5時間で行けたのを7時間で行くようにすればよい。2000mの山へ行くのにリーダーがいなくなったので行かないとあきらめるのではなく、他の会の元気なリーダーやプロに頼んで行くようにすればよい。車の運転が心配になったので行けないとあきらめるのではなく、ジャンボタクシーを頼んで行くようにすればよく、金で解決できる時は金を出せばよい。
 - ・ 役員のなりてがいなくなったので、運営委員会を廃止し、毎月の定例会の進行を持ち回りにして、定例会で全てを決めるようにした会がある。
 - ・ 登山教室を毎年開いており、参加者の中から2～3名、会に入ってきている。
 - ・ 勧誘ポスターを張っても、会に入る人は殆どいない。
 - ・ 八王子の山の会では、山行計画書の提出を当日までにラインで流しOKにしている。山行計画書を1週間前に提出させ、チェックして出し直させるようなやり方は、若い人達がめんどくさくなり会に入らなくなるので、見直す時期に来ているのではないか。現在は救助体制がしっかりしてきており、北アルプスなどでは救助隊が来てから30分で病院に到着できるようになっているのであるから。

写真・文：渡辺正夫